

自然の博物館に4つの新展示誕生！ ～埼玉の自然がより分かりやすくリニューアル～

井上素子・北川博道・木山加奈子・半田宏伸

1月14日から29日にかけて、常設展示の展示改修を行いました。今回新たに加わった4つの展示について、担当した学芸員がご紹介します。

新展示その1 埼玉県のシンボル

皆様は、埼玉県のシンボルをご存知でしょうか。県民の方々に自然に対する興味、関心、親しみを持っていただくため、埼玉県では、鳥、木、花、蝶、魚の5つのシンボルを定めています。本コーナーでは、標本や精密なレプリカを展示し、これらについて解説しています。

県民の鳥「シラコバト」

埼玉県のマスコットキャラクターの「コバトン」や「さいたまっち」のモデルです。

県の木「ケヤキ」

公園や街路樹でよく見られる身近な木です。

県の花「サクラソウ」

現在は少なくなったものの、かつては荒川沿いに数多くの自生地がありました。

県の蝶「ミドリシジミ」

県内平野部に見られる規模の大きなハンノキ林の代表的な生きものです。

県の魚「ムサシトミヨ」

熊谷市の元荒川流域にのみ生息します。



図1. 埼玉県のシンボルコーナー

新展示その2 長瀬の動植物

本コーナーでは、名勝・天然記念物長瀬の多様な自然と、それぞれの環境に暮らす生きものについて

紹介しています。本展示を見た後に岩畳を散策すると、普段とは違う視点で自然を感じることができると思います。見どころは以下の2つです。

①鳥瞰図で観察ポイントを紹介！

岩畳周辺の様子分かる鳥瞰図を設置しました。これで、お問い合わせが多かったポットホールや虎岩の場所が一目でわかるようになりました。この鳥瞰図は、マグネットシートを貼り付けて、ホットな生きもの情報を書き込めるようになっていました。随時情報を更新していく予定ですので、ご来館の際にはチェックしてみてください。また、同じ図を使った「長瀬自然観察マップ」の配布もはじめました。春・初夏・夏・秋・冬の5種を季節ごとにお配りしますので、ぜひご利用ください。

②岩畳の特徴的な自然と旬の生きものを紹介！

新たにケースを2つ設置し、岩畳周辺の生きものの標本やレプリカ、写真を展示しました。1つ目のケースには、強い日差しや乾燥に強いテリハノイバラや、洪水によるかく乱で保たれる河川敷に生息するカワラバッタなど、岩畳の特徴的な環境の生きものについて紹介しています。もう1つのケースでは、岩畳で見られる旬の生きものをご紹介します。現在は、地衣類のほかに春～初夏に観察できる昆虫類を展示しています。こちらのケースは、季節ごとに内容を更新します。どうぞお楽しみに！



図2. 岩畳周辺の鳥瞰図と季節の動植物

新展示その3 ようこそ、日本地質学発祥の地へ

秩父地域は、「日本地質学発祥の地」といわれ、明治時代から地質学の研究や、学生のフィールドワークが盛んだったところです。そして、平成23年には「ジオパーク秩父」として日本ジオパークに認定されています。当館の歴史もこのような土地柄と深く関連しており、その前身は大正10年設立の「秩父鑛物植物標本陳列所」に遡ります。

本コーナーでは、このような秩父地域の地質研究史を紹介するとともに、ジオパーク秩父のジオサイト（みどころ）を紹介しています。博物館で学んだ後は、ぜひ実際にジオサイトに足を運んで、大地の歴史を体感していただければと思います。

また、本コーナーは地学展示ホールの導入部にも当たります。そのため、来館者が埼玉の大地の成り立ちについて全体像を掴んでいただく場所として位置づけました。長い地球の歴史の中で、日本列島はどのような変動を受け、そしてその時、埼玉県はどのような場所であったのか、それをイメージできれば、地質学は難しいものから楽しいものになります。そこで、本改修にあわせて、地学展示ホール全体を新たに「大洋の時代」・「大陸の時代」・「古秩父湾」・「列島の時代」の4ステージに分けて紹介することにし、その導入部である本コーナーには、各時代の概念図と代表的な岩石を合わせて展示しました。こだわりは、各時代の概念図です。諸説がある中、作成するのは勇気のいる作業ですが、ここでまず全体像を掴んでいただきたいと思い、作成しました。そして開館時から展示されてきた地形模型も、リフレッシュさせて壁面に展示しました。スカイツリーも忍ばせてありますので探してみてください。



図3. ようこそ、日本地質学発祥の地へ

新展示その4 古秩父湾の地層と化石

平成28年3月に当館所蔵の化石9件と、秩父の6カ所の地層を合わせて「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」として、国天然記念物に指定されました。これをきっかけに、博物館では、2年計画で天然記念物に指定された化石の展示環境を整備してきました。去年は、パレオパラドキシアの展示を整備し、大型スクリーンを設置したり、古秩父湾を説明する映像を作成したりしました。今年は、クジラ化石を展示保管するためのケースを作成し、今まで一部の化石しか展示できていなかったクジラ化石が広々と展示できるようになりました。新たなスペースは、もともと地形模型が展示してあった場所から、地形模型を地学展示ホール入口に移設し、作りました。

展示標本の中でもオガノヒゲクジラは、その下顎にカルカロドンメガロドンにかまれたと思われる傷があります。ぜひ探してみてください。

青い部屋の中は、さながら1500万年前の秩父の海の中。化石を観察しながら、秩父の海を想像していただければと思います。



図4. クジラ化石のケース

また、クジラ展示スペースを作った関係で、地学展示ホールに1つ新たな展示ケースが入りました。地学展示ホールのゴールとなるここでは、十数万年前から縄文時代までの関東平野がまだ海だったころの化石や遺物を展示しています。

（いのうえ もとこ・主任学芸員
 きたがわ ひろみち・学芸員
 きやま かなこ・学芸員
 はんだ ひろのぶ・学芸員）